

【自分たちに何ができるか】⑧

みんなの思いを伝えよう！

能登半島地震から五週間がたちました。亡くなられた方が未だに増えている状況です。流山でも雪が降り、寒い日が続いています。日本海側の天候は、こちらとは比べものにならないくらい寒く、厳しいものだと思います。昨日のニュースでは、震災で出たゴミの処理に、ものすごくたくさんの方が関わること、報道されていました。推計百五十一万トン、年間にするゴミの量の五十九年分にも及ぶようです。ちよつと想像できませんよね。ライフラインもまだ十分ではないし、避難所や仮設住宅等についても報道されています。私たちにはなかなか想像できないことですが、学びを続け、思いを馳せ続けていきましょう。

みなさんが協力してくれた文房具について、学習委員会の人たちが中心になって、ノートや鉛筆などの筆記用具等、本当にたくさん品物が集まりました。ありがとうございます。現在、珠洲市と輪島市だけで三百人もの中学生が金沢市に避難しているということです。まだ混乱している中学校へ直接送ることは難しいので、研究仲間である金沢工業大学の白木みどり先生にお願いをして、現在金沢工業

大学が行っているボランティア活動に併せて、直接避難している生徒のみなさんに届けていただくことにしました。学習委員会や生徒会のみなさんが準備してくださったメッセージを添えて、近日中に発送したいと思います。たくさんのご協力に心から感謝します。みんなの思いは、きっと能登のみなさんに届きます。災害発生から時間がたつと、関心が薄れてしまうこともあります。しかし、昨日もテレビ番組でも放送されていたとおり、南海トラフ地震や首都直下型の地震が、いつ発生してもおかしくなくとも言われています。他人事ではなく、自分事として捉えておくことも大切なのではないのでしょうか。鉛筆・消しゴム・ノート・定規・シャープペン・サインペン：みなさんの熱い気持ち、きつと避難している中学生のみなさんの心に少しでも灯りをともしてくれませんか。みなさんの協力に心より感謝します。ありがとうございます。

【これからの進路を考える】

職業人講話から何を学んだか



一年生は、四人の講師の先生方をお招きして、職業人講話を実施しました。栄養教諭の先生、デザイナーさん、獣医師の先生、スポーツインストラクターの方と、全く異なった種類の講師の先生方からそれぞれの職業の特徴や仕事に対するやりがい、喜びなどたくさんのお話をいただきました。「中学生のみんなに何かを伝えたい」、そんな熱い思いをみなさんが持つてくださって、お願いしていた時間を大幅に超えて語っていただいたので、みんなから質問する時間はとても短くなってしまいました。それぞれの先生方のお話から、みんながこれから自分の進路を考えていく上で、とても大きなヒントが得られたのではないかと思います。

自分が夢見た職業に全員が就けるわけではないし、みんなが就職する頃は、仕事の種類も大きく変わっているかも知れません。二〇三〇年頃には、今ある職業の半分が変わっているという研究を発表した学者さんさえているほどです。ICT技術は飛躍的に進歩を重ねています。みんなの大好きなゲーム機を例にとっても、ここ数年でかなりバージョンアップしたことは知っているとおりです。私たちはそんな時代の流れに遅れないためにも、たくさんさんの知識を身に付ける必要があります。普段の勉強や読書は、とても大切なのだということ、改めて考えさせられた機会となったのではないのでしょうか。